

あるかていあ広島

Vol.66

現在会員数 **1434** 人

INDEX

「介護福祉士の役割」会長 橘高裕行	1
平成29年度「介護の日」ポスター募集 入賞作品紹介	2～3
平成29年度「介護の学校」報告	4～5
夜間勉強会報告	6
会員さんからのメッセージ	7
若者会“絆”報告	8
広報誌担当コラム「原点回帰」	8

介護福祉士の役割

2018年3月 公益社団法人広島県介護福祉士会 会長 橘高 裕行

3月に入り、まだ肌寒い風の吹く中にも、少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになってきました。昨年6月に現職を引き継ぎ、早いもので9か月。密度の濃い時間を過ごし、これも当会を支えて下さっている会員や関係機関の皆様、役員の皆さんのおかげであると感謝しております。

平成30年度介護報酬改定の概要がいよいよ発表されました。いわゆる団塊の世代が2025年に全員75歳以上の後期高齢者になるため、今後、医療・介護ニーズが急速に高まっていくと予想されます。このため、医療・介護ニーズが高くなっても、可能な限り住み慣れた地域での生活を続けられるような仕組みが求められており、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」を、地域の実情に応じて総合的・一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築が急ピッチで進められています。

地域包括ケアシステムの構築では、誰もが住み慣れた地域で暮らせる地域づくりを目指すとして地域ケアへの転換が示され、その実現には今まで以上に医療と介護の連携、協働をしていくことが重要となり、利用者の日常に接する機会が多く日々の状態変化にも気づきやすい立場にある介護福祉士は、介護チームのサービスのマネジメントや他職種と連携する力が求められ、益々介護福祉士に対する期待が高まり専門性が求められています。

そういった中で、厚生労働省は新年度から導入する訪問介護の「生活援助」に特化したヘルパーの養成制度について、研修時間を59時間にする方針を決めました。この制度は、深刻な介護人材不足に対応する

ため、退職者や子育てを終えた人など介護未経験者の参入を促進し、介護について知る機会を設けることで、介護分野への参入のきっかけ作ろうという狙いがあるものです。現在、訪問介護を担っているのは介護福祉士もしくは130時間の「介護初任者研修」修了者等ですが、初任者研修修了者以上には排せつ介助等の「身体介護」を重点的に担ってもらい、新研修制度の修了者には掃除や調理など「生活援助」を担当してもらう方針となっています。

介護人材のすそ野を拡げるためにも、入門的研修の導入に決して否定的ではありませんが、一方で初めて介護分野に参入した人材についても「利用者の尊厳ある自立した日常生活を支援」するためには、制度の理解や介護に関する基本的な知識・技術など必要最低限の知識・技術を身につけておく必要もあると考えますが、実際は生活援助に重点を置くため、研修の中には介護技術的な要素はなく、「倫理」についても4時間しか盛り込まれていないのが実情です。

こういった現実も踏まえ、我々介護福祉士は利用者の生活を身近で支える専門職としての資質を高め、「介護福祉士」が「介護福祉士以外の介護職」の指導的役割を担い、「介護福祉士」と「介護福祉士以外の介護職」が協働で介護福祉の実践を担うことで、地域包括ケアの推進等介護サービスの高度化に対する社会の要請に応え、社会的評価を高めるために、今後も職能団体の責務として、各種研修を積極的に進めて参りたいと考えています。

役員一同力を合わせ前進して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

平成29年度「介護の日」ポスター募集

入賞作品のご紹介



小学生の部



優秀賞

向谷 彩耶さん

東広島市立東西条小学校
6年生

会に行くといつも「よー来たねー」と笑顔で迎えてくれる、とてもやさしいおばあちゃんのことを考えて描きました。笑顔をずっと見ていたから、長生きしてほしいです。



佳作

栢原 龍真さん

三原市立小泉小学校 3年生

「大好きなおばあちゃん、ありがとう。長生きしてね」という気持ちで描きました。

佳作

櫻谷 那央さん

広島市立五日市小学校
3年生

障害を持つ人や高齢者を介護する人が増えたらいいという気持ちで描きました。



中学生の部



優秀賞

安原 弘珠さん

広島大学附属三原中学校 1年生

私たちのおばあちゃん、おじいちゃんが安心して背中を預けられるような場所を今まで支えてもらってきた私たちがつくて支えていきたい。

佳作

丸山 慶人さん

広島市立美鈴が丘中学校
2年生

会に行くといつも喜んでくれるおじいちゃんを思い浮かべて描きました。



佳作

田坂 弥久さん

尾道市立因北中学校
3年生

介護をする人が介護される人の手をとって支えることが大切だということを考えて描きました。



高校生の部



優秀賞

沖野 来実さん

広島県立尾道商業高等学校 3年生

介護の仕事をしている姉が「介護の仕事が辛いと思っている人が多い」と言っているのを聞いて、それは違うということを表したかった。介護の仕事は重要なのに、人手不足で大変なので、明るいイメージを前面におしだしてみました。



佳作

野寄 紗也さん

広島県立総合技術高等学校 1年生

写真の中の二人のように、毎年11月11日に笑顔で写真を撮れるような「介護の日」になるといいなと思いながら描きました。



佳作

門 観月さん

広島県立黒瀬高等学校 2年生

介護サービス利用者と介護従事者との心が通い合う笑顔を表現しました。

平成29年度「介護の日」ポスター表彰式

平成29年11月11日(土)・12日(日)の2日間、紙屋町シャレオにおいて「介護の日」ポスター展を開催しました。

この「介護の日」ポスターの募集は、県民への「11月11日は介護の日」の周知啓発を目的とした広島県地域医療介護総合確保事業の一環として行われ、今年で6年目を迎えました。広島県内にお住まいの小学生、中学生、高校生を対象として、お年寄りや障害のある人とのふれあいの中で感じたこと、介護施設の見学や体験学習を通じて感じたこと、介護の仕事をしている家族や実際に介護をしている家族に対する想いなどを絵で表現することで「介護」を考えるきっかけ作りしてもらおうという取り組みです。

今年度は小学生の部206点、中学生の部395点、高校生の部118点の合計719作品が集まり、ご応募いただいた作品は、当会も参加している広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会 情報提供・啓発部会による審査会を経て、入賞作品9点が選ばれました。

今年度も展示会場内のステージではアトラクションを行いました。ジャズ演奏「広島大学 jazz 研究会」、ウクレレ演奏とフラダンス「ナノ・アロアロ」、口笛演奏「ひろしま口笛クラブ」、アコースティックギターライブ「待夢達」、マジックショー「マジシャンの藤原勉さん」が始まるたびにステージ前にはたくさんの人が集まってくださり、そのままポスター展も見つて帰ってくださる方もたくさんおられました。

ポスター展には2日間で約1800人の方々にご来場いただくことができました。「11月11日は介護の日」の周知啓発と共に介護への興味関心がより多くの方に広まっていくように、引き続き来年度も実施できたいと思っています。「介護の日」ポスター募集にご応募いただいた皆さん、取りまとめにご協力くださった学校関係者の皆さん、当日のアトラクションにご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。



2月4日(日)介護の学校 in 広島、2月18日(日)介護の学校 in 尾道を開催いたしました。両校合わせて350名以上の参加者があり、盛大に行うことができました。

今年度は介護の魅力を伝えたいという思いを込めて授業内容を考え、一般向け(生活に沿ったテーマ)と従事者向け(専門性の高いテーマ)に分けて授業を組み立てました。一般参加者の皆さんには介護を身近に感じ、介護の入り口が学べるように基本的な介護技術や介護保険制度について学んでいただきました。また従事者を対象にした授業では、介護現場の人材育成のあり方を考える授業や自分たちの仕事の魅力を再確認できるような授業などさまざまな角度から介護の今を考えられるような授業をプログラムしました。

午後からは放課後教室と題して映画「ケアニン」の上映会を行い、参加者の多くが残って映画鑑賞し、介護という仕事の魅力や奥深さを感じていただけたように思います。

この介護の学校の取り組みを通して、介護を仕事とする私たち一人一人が日々の感動を声に出して伝えていくことが、介護のイメージを変え、人手不足だといわれる介護業界を盛り上げていく活動のひとつであると実感しました。終了後のアンケートでは多くの方々から「来年の介護の学校も楽しみにしているよ」という声をいただき、今回以上の学校が開校できるように、また準備をしていきたいと思います。

お忙しい中、ご参加くださった皆様、講師を引き受けてくださった皆様に心より感謝いたします。

「介護の学校」実行委員長 吉岡俊昭

盛大に開催!!

1時限目(10:00-11:00)

みんなに優しい介護技術

体の基本的な使い方や移乗方法など、家族介護に役立つ技術をお伝えしました。

技術の前に相手を思う気持ちや優しさがないと介護はできないと思わされました。

介護用具の使い方が実物を見ながら学べ良かったです。

人材育成 ～プロフェッショナルを どう育てるか～

介護現場における人の育て方の極意をお伝えしました。

新人職員の具体的な声も聞いてよかった。

「同期かいない…」確かに辞めていく人はすべて同期かいませんでした。これを知ることが出来ただけでもアプローチの仕方が増えてくる。

何もかも家族に任せて頑張るでもなく、すべてを施設に任せるでもなく、上手にその人に合った施設を利用したいと思います。



利用者さんの小さな変化に気付く力、喜びや悲しみ(痛み)を共感できる力を付けたいたくさん経験していきたいです。

家族介護を語ろう

経験談や認知症カフェの取り組みを通じて家族介護を考えました。

認知症カフェはただの場として作っていいのではなく、専門職が関わってしっかりとしたコンセプトを組み立てていかなければ効果はない難しさもわかった。

みんなで語ろう! 介護の魅力

介護の本当の魅力を語り合い、この仕事の面白さと奥深さを再確認しました。

どうしても流れ作業になりかちな場面でも、その方その方の残存機能を生かした介助、その人らしく生活が送れるよう支援していきたい。



平成29年度「介護の学校」

2 時 限 目 (1 1 : 2 0 - 1 2 : 2 0)

どう使うの？ 介護保険制度

もしものために介護保険の使い方をわかりやすく解説しました。

相談する場所さえ知らなかったのだからなかった。

優しさを技術という形にして伝える。私は介護職ではありませんから、プロとして具体的に表現する、統一するということの大事さもしっかり伝わりました。

生活支援技術の追求

生活支援技術を通して介護の専門性を考えました。

制度の細かいところがどんどん変わっていくので混乱すると同時に、財源的なことを考えると、自分が利用する頃にはこの制度が崩壊しているのではないかと不安です。

これから勤めていく中で壁もあると思います。その時に周りの人の助けを必要としていいんだ、思い詰めるより話す方がいいんだと思いました。

介護福祉士についての仕事がよくわかりました。この仕事に興味が強くなりました。

介護の魅力 ～プロだから語れる面白さと奥深さ～

介護現場での感動を共有し、介護の仕事の面白さと奥深さをお伝えしました。

自立支援」と「自立の強制」について、すごく考えさせられました。

未来デザイン ～これからの介護の可能性～

介護現場で働く人たちがこれから何をすべきか考えました。

「介護職」というより、「人」として個人がどう生きていくか、どう今後を見ていくか考えるよい機会になった。

私もこれからの介護の未来を変えていく一人なんだと考え、明日からの業務への活力にも繋がりました。また介護の世界の広がりも感じました。



映画上映「ケアニン」

映画を通して、介護をしている人、家族の介護をしている人、介護を学びたい人、それぞれの立場で介護を考えました。

放課後教室 (13:30 - 16:00)

「認知症になったからっておしまいにしたくないんです」という主人公の言葉が印象に残った。

最後に主人公が、家族や社長の言葉で再び介護の仕事に向き合う気持ちになった場面が印象的。ゴールのない仕事だからこそ、その過程を他者から認めてもらうことで、自分自身を肯定できる大切さを感じた。

私は他業職ですが、「人を幸せにする」という面では共通項がたくさんあったのでとても参考になりました。

介護事業所プレゼン大会 (広島会場のみ)

介護事業所が日ごろの取り組みについて発表しました。

介護の仕事に魅力があるんだなと明るく元気になりました。自分もプレゼンされた方たちのいるデイサービスに将来通いたいなと思いました。





平成29年度、広島県介護福祉士会では広島市、福山市、尾道市、東広島市と県内各地で「夜間勉強会」を開催しました。会員であればワンコイン（500 円）でご参加いただける90分～120分のミニ勉強会ですが、介護従事者のみなさんの身近な学びの場として少しずつ定着してきたように思います。

利用者にとって「介護福祉士」は、安心の証明書です。日々の介護現場で根拠に基づいたケアを実践していくためには、自分自身の知識や技術を磨いていく姿勢が常に求められます。この夜間勉強会が、そんなみなさんのお役に立てれば幸いです。

気になるテーマを見つけたら、ぜひ夜間勉強会にご参加ください！

平成29年度の開催実績

夜間勉強会 in 広島	毎月第4木曜日に広島市内で開催 主な研修テーマは新人育成、 介護技術等
夜間勉強会 in 福山	毎月第4木曜日に福山市内で開催 主な研修テーマは認知症ケア、 睡眠等
夜間勉強会 in 尾道	尾道市内で年5回開催 主な研修テーマは薬の知識、 ポジショニング等
夜間勉強会 in 東広島	東広島市内で年5回開催 主な研修テーマはおむつの 当て方、アンガーマネジメント等

平成30年度の開催予定

夜間勉強会 in 広島	毎月第4木曜日に広島市内で開催予定 今後の研修テーマは介護保険改定、 接遇マナー等
夜間勉強会 in 福山	毎月第4木曜日に福山市内で開催予定 今後の研修テーマは権利擁護、 接遇マナー等
夜間勉強会 in 尾道	隔月に尾道市内で開催予定 今後の研修テーマは介護技術、 アンガーマネジメント等
夜間勉強会 in 東広島	隔月に東広島市内で開催予定 今後の研修テーマは薬の知識、 口腔ケア等

講師からのメッセージ

平成29年度「夜間勉強会 in 広島」では、平成29年7月から平成30年3月にかけて、全9回シリーズで『2次障害を予防・改善するためのケア技術』を学びました。ご指導いただきました香川寛先生からメッセージが届きました・・・

NPO法人リハケアリングネットワークの香川です。この度は全9回シリーズ・・・9か月に渡る研修という貴重な機会を与えて頂き、ありがとうございました。

昨年の7月に「これからの現場には何が必要なのか？」という少し大きなテーマでお話させて頂いた後、立位、移乗のサポート、福祉用具を活用した移乗、座り直し、車いすの調整、ベッド上の移動、起き上がり、ポジショニング、事例検討などなど行わせて頂きました。どれも皆さん大変熱心で、現場に対しての皆さんの真剣な姿勢を感じさせて頂きました。2次障害の予防、健康的な生活のためには介護福祉士である、現場の対象者の一番近くで仕事をされる皆さんの力は非常に大きいと思っています。研修の中でお伝えしてきた2次障害を予防するための「寝る」「座る」「抱えない」「立てる方はしっかり立ってもらう」、この実践と結果は皆さんの力なしではありえないとも思っています。

これからの日本は超高齢社会による多死時代とも言われています。その人らしく人生をまっとうした後、どういった人生の終え方をするのか。健康的に歳をとっていく、そして好きな場所で、好きな人と、苦痛のない、その人らしい人生の終え方ができる。個人的にはそんなことを支えることのできる仕事がしたいと思っています。職種は違いますが同じ支援者として、皆さんとこれから力を合わせていきたいですね。

今回このような貴重な機会を与えて頂き本当にありがとうございました。本当に一生懸命に取り組まれる皆さんの姿から、逆に沢山のことを学ばせて頂きました。9か月間本当にありがとうございました。またどこかで会いましょう。

NPO法人リハケアリングネットワーク
リハケアネット訪問看護ステーション 代表理事 香川 寛



※開催要綱は順次ホームページ

<http://care-net.biz/34/hiroshimakaigo/kenshuukai.php>
に掲載していきます。

平成29年度「夜間勉強会」参加者数

TOP3

第1位 参加者：117人

平成29年5月25日「夜間勉強会 in 福山」

テーマ 「認知症当事者の声を聴こう」
講 師 竹内裕氏

第2位 参加者：82人

平成29年8月24日「夜間勉強会 in 福山」

テーマ 「トロミの量はこれであっての？」
講 師 株式会社クリニコ 木村夏也氏

第3位 参加者：74人

平成29年10月26日「夜間勉強会 in 福山」

テーマ 「認知症介護に役立つハンドセラピー」
講 師 エスティーム代表 牛尾容子氏

『私の力の源』

介護老人保健施設花の丘 介護副主任 小玉 暁 (平成20年度入会)

私は介護の仕事を始めて12年が経ちます。仕事を始めたばかりの頃は、介護の仕事、介護福祉士という資格にやりがいや楽しさ、誇りを感じることができない日々が続いていました。今、振り返ってみると、社会人として、介護福祉士としての自覚が足りなかったこともあり、介護の仕事が誰にでもできる仕事のように感じていたのではないかと思います。

介護の仕事を表面的にみると、介護を必要とする方の日常生活をお手伝いすることを主な業務としていて、毎日同じことの繰り返しだったり、うまくいかないことがあれば利用者さんからはもちろん上司や先輩、同僚からも叱られて、モチベーションが下がることがあります。そんな私をやる気にさせてくれたのが広島県介護福祉士会若者会“絆”との出会いでした。

若者会“絆”では、私と同世代の方もいれば年上の方や年下の方、専門学校に通う学生が参加しており、その方々

と介護の仕事に対する思いや気持ちを語り合い、私もそんな熱い気持ちを持って働きたい!「あんたがええ」「あんたに会えてよかった」って思ってもらえるような介護福祉士になりたい! と思えるようになりました。技術や知識だけでなく、相手を思いやる気持ちを大切にして、目の前の利用者さんやその利用者さんを取り巻く家族さんにも幸せを感じてもらえるように頑張ってます!

私の力の源は介護福祉士会を通してできた仲間、一緒に働く仲間、利用者さんやその家族さんたちの笑顔です。みなさんも私たちと一緒に介護の仕事の話や介護福祉士という資格に対する思いや気持ちを語り合ってみませんか?



会員さん
からの

メ

ッ

セ

ー

ジ

『利用者様と共に』

特別養護老人ホーム和楽荘 小泉 勝 (平成28年度入会)

私は幼いころからおじいちゃんとおばあちゃんが大好きでした。母と父は仕事へ行き、その空いた時間にずっと面顔を見てくれていたのが、おじいちゃんとおばあちゃんでした。

中学生の時、おじいちゃんが癌になり、体も衰えていきました。死に対することをあまり知らなかった私は、なかなか病院に顔を見せに行かず、ただただ遊び呆けていました。おじいちゃんは介護が必要になる状態まで悪化した時、母から「じじはよく頑張ってきたけど、もう長くないかもしれん。勝の顔を見せにいつてあげて」と言われました。翌日、母と一緒に病院へ行きました。見慣れない姿のおじいちゃんがベッドで寝ており、何も言葉が出てきませんでした。その数週間後おじいちゃんが亡くなり、何もしてあげられなかった自分が情けなくて毎日のように泣いていました。



そんな頃、何か恩返しできることはないかと考えたときに「介護福祉士」という資格を知り、自分もなりたいたと思いました。それが

ら介護福祉士が取れる専門学校へ行き、卒業後は特別養護老人ホーム和楽荘へ就職しました。

実際に現場で働いてみると、自分が思っていた介護とは違って、とてもしんどく、利用者様のお手伝いをしようとすると、逆に嫌がられたり、振り回われたりすることも初めはよくありました。そんな時に職場の先輩から「利用者様が今何を考えているのか、何をしてほしいのかをよく考えてみたらいいよ。その人をしっかり知ることが大事だよ」と言われました。

就職したばかりの私は利用者様とお話をし業務をこなしているだけで、利用者様のことを知ろうともしませんでした。その日から介護に対する目線を変えて利用者様と関わっていきました。利用者様と関わっていくとその人が、今、私たちに何を求めているのかがだんだんわかってきて、利用者様からも「ありがとうね。あんたがおってくれてよかったよ」と感謝の言葉も頂けるようになりました。

まだ2年しか働いておらず未熟な私ですが、利用者様のことをもっと知り、介護という仕事を通して楽しく笑顔の絶えない毎日を利用者様と過ごしていきたいと思っています。

若者会“絆” 活動報告

絆のある意味

皆さん、こんにちは。若者会“絆”代表の掛谷剛です。早いもので、私が絆の代表をさせていただいて3年が経とうとしています。

まだまだ未熟な若者が集い、何か出来ることはないだろうか？ 絆が活動することで、介護福祉士会や介護業界を盛り上げていくことは出来ないだろうか？ とさまざま思いを持ちながら、月イチ交流会、スポーツ交流会、他県介護福祉士会との交流や小学校訪問など、たくさんの活動を行ってきました。さまざまな研修や活動を通して、自己研鑽や介護福祉士という専門職としての自信と誇りを持つことは、とても大切だと日々感じています。

そんな中、絆のあるべき意味を考えさせられる出来事もありました。

「これからも介護の仕事を続けていけるだろうか？」

そんな悩みを抱えながら、絆の月イチ交流会に参加してくれた方がいました。心機一転新しい職場に飛び込んでみたものの、なかなか一歩が踏み出せない。そんな思いの中で、参加してくれた月イチ交流会。参加者それぞれが、それぞれの立場で、それぞれの思いを語り合う中で、自分の思いを少なからず共有できたこと。その方にとって、何らかの感じるものがあつたのだと思います。その方は翌月の月イチ交流会に

も参加してくれました。

「これからも介護の仕事を続けていきたいと思います！」

絆という集いの場所が、良いことばかりではなく、辛いこと悲しいことも共有できる場所になっていることに、感慨深いものがありました。

介護を辞めようと思っていたけど、絆の活動への参加を通して介護福祉士の資格に誇りを持つことができ、介護福祉士会に入会してくれた方もいます。介護の仕事、介護福祉士の自信と誇り、介護福祉士会の入り口として、絆の意味は確実に大きくなっていると感じています。

多くの若い介護福祉士たちが、もっと自分たちの気持ちを伝えることのできる場所づくりという絆が誕生した初心も忘れずに、これからも介護福祉士会の中で、情熱とやる気を出し続けられる若者会“絆”でありたいと思っています。



若者会“絆” 掛谷 剛（特別養護老人ホーム新都西風苑）

月イチ交流会 参加者募集

若者会“絆”では、毎月第2水曜日に広島市内で「月イチ交流会」を開催しています。日々の想いや悩みを語り合ったり、ミニ勉強会を行っています。介護に携わる方であれば資格の有無を問わず参加可能です。ぜひお気軽にお越しください。
※詳しくは当会ホームページ(<http://care-net.biz/34/hiroshimakago/kizuna.php>)をご覧ください

広報誌 担当コラム

原点回帰

たくさんのお花が咲き始める季節になりました。日本で咲く花の色は白色、次に黄色が多く、特に春は黄色が多いそうです。綺麗なお花をみつけるたびに、その姿を残しておきたくてカメラを向けるのですが、実物とファインダーを通して見る黄色は少し違います。現像した時の黄色もやはり実物とは異なります。最近は私のような素人でも色や構図を簡単に撮ることができるので、実物の花がどんな色、どんな状態だった忘れてしまうことがあります。きちんと写真の勉強をしないくても技術がなくても、綺麗な写真が撮れたように見えますが、プロのカメラマンにはすぐにわかるそうです。

技術や知識は、経験を重ねるほど成功体験や自己の価値観が加わり、無意識のうちに我流の技術や解釈に偏っていきます。「個性」も大切ですが、私たち介護福祉士の専門性には「根拠」が大切です。日々変わる状況に応じて、常に正しい判断と実践を求められています。「なんとなくやったら、たまた

ま上手くできた」ではなく、なぜ上手くできたのか？ あるいはできなかったのか？ これで良かったのか？ もっと良い方法はなかったのか？ と振り返り、根拠を確認し、チームで共有する必要があります。

広島県介護福祉士会では平成30年度も引き続き県内各ブロックで夜間勉強会を企画しています。勉強会への参加は、振り返りの場、新しい技術や知識の習得の場として、また新しい人との出会いによって「なぜ私は介護福祉士になったのか？」という原点回帰にもなります。介護福祉士の専門性や根拠の再確認、介護の仕事の魅力の再発見をしてみませんか？

菜の花の香りや触感、風に揺れる姿、空気や土の匂い、周りの景色も含めて、いろんな角度から実物に触れるたびに「春が来た！」と希望や始まりを感じるこの季節が、私は一番好きです。

広報誌担当 宮前

